

一般社団法人日本写真学会
第10回 定時社員総会

日時：2021年（令和3年）5月18日（火）15：00～16：00
会場：日本写真学会 事務局（ホスト）
〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大内8号館
1F マルチスペース 8103

【第1号議案】2020（令和2）年度事業報告（案）

1. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））
 - 1-1 学会誌の刊行に関する事項
 - 1) 発行回数 6回 日写誌83巻2号～4号, 84巻1号, BSPIJ vol.30-1, vol.30-2
 - 2) 総頁数 333頁（日写誌）, 25頁（英文誌）
 - 3) 特集
東京工芸大学「私立大学研究ブランディング事業」第二回「色」の科学・芸術に関する国際シンポジウム（83巻2号）
2019年のカメラ（83巻3号）2019年の写真の進歩（83巻3号）
西部支部（83巻3号）
飛跡を追う（84巻1号）
 - 4) 主要掲載事項および件数（Web 英文論文誌 BSPIJ を含む）
一般論文（特集論文含む）3件 口絵 4件
ノートおよびレター 3件 紹介（写真のある美術館）4件
技術レポート 1件 追悼 1件
講座（ワンポイント）3件 書評 2件
解説 11件 会報 4件
写真史 4件 その他（受賞者案内）1件
 - 5) 科学技術振興機構の電子アーカイブ J-STAGE に、発行後1年経過した論文・解説等の記事を掲載した。
2. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））
 - 2-1 研究発表会、講演会などの実施
 - 1) 2020年度日本写真学会オンライン秋季大会
期日：2020年12月10日（木）～12月11日（金）会場：オンライン開催
主催：一般社団法人日本写真学会
【プログラム】
オーラルセッション
第1日 12月10日（木）
[A会場]
A-01 全水分解用光触媒 Z スキームシステムの電子構造の研究
谷 忠昭 1, 西見 大成 2, 内田 孝幸 3, 山口 友一 4, 工藤 昭彦 4（1 日本写真学会, 2 人工光合成化学プロセス技術研究組合, 3 東京工芸大学, 4 東京理科大学）
A-02 写真化学反応を用いる白金-銀複合ナノフィラメントの生成と電気化学特性
金谷 洗希, 柴 史之, 大川 祐輔（千葉大学）
A-03 複合銀コロイド粒子の創製と応用に関する研究（依頼講演）
白石 幸英（山陽小野田市立山口東京理科大学）
A-04 視覚と写真（依頼講演）矢口 博久（千葉大学）
A-05 3 屈回曲魚眼光学系を用いた全天球カメラ「RICOH THETA Z1」（依頼講演）
佐藤 裕之, 藤屋 隆明, 鳥海 裕二（リコー）
A-06 マルチスペクトルカメラと RTK-GNSS を用いた UAV（ドローン）の画像の評価と応用
内田 孝幸 1, 寺尾 凜太郎 1, 宮崎 桂一 2（1 東京工芸大学, 2 キュービクスデザイン）
A-07 ベアト写真と辿る相模国（神奈川県）の高原リゾート地
高田 俊二（千葉大学）
A-08 画像処理技術による行動検知を活用したケアサポート

- システムの商品化（依頼講演）
新田 和馬, 一谷 修司, 将積 直樹（コニカミノルタ）
- A-09 医用画像に対するコントラスト強調を考慮した可逆情報埋込み法の改善
瀬口 陽太, 今泉 祥子（千葉大学）
- A-10 （続報）「見立て」と写真の関連性について
小林 珠里（写真家）
- A-11 震災の記憶と写真表現
國田 佳恵
- [B会場]
- B-08 NINJA 実験・物理ランにおけるニュートリノ反応解析の現状
福田 努 1, NINJA Collaboration 1,2（1 名古屋大学, 2（京都大学, 横浜国立大学, 日本大学, 東邦大学, 東京大学, 神戸大学））
- B-09 CERN LHC におけるニュートリノ反応候補の初観測
有賀 智子 1, 有賀 昭貴 2, 中野 敏行 3, 音野 瑛俊 1, 佐藤 修 3, 田窪 洋介 4（1 九州大学, 2 ベルン大学, 3 名古屋大学, 4 KEK）
- B-10 原子核乾板の高位置分解能を利用した DsTau 実験での運動量測定
佐藤 修 1, 中野 敏行 1, 吉本 雅浩 2, 有賀 智子 3, 有賀 昭貴 4（1 名古屋大学, 2 岐阜大学, 3 九州大学, 4 ベルン大学）
- B-11 Double lambda hypernuclei detected in J-PARC E07 with Hybrid-emulsion method
Aung Nay Lin Nyaw 1, Kazuma NAKAZAWA 1, Masahiro YOSHIMOTO 1, Phyo Myat Lin 1, Ayumi KASAGI 1,2, Naoki NISHIMURA 1（1 Gifu University, 2 RIKEN）
- B-12 原子核乾板デジタルアーカイブス計画 - JACEE データの紹介 -
児玉 康一 1, 市村 雅一 2, 中村 光廣 3（1 愛知教育大学, 2 弘前大学, 3 名古屋大学）
- 第2日 12月11日（金）
[A会場]
- A-01 原子核乾板を用いたミュオンラジオグラフィによる火山内部構造の研究（依頼講演）
宮本 成悟（東京大学）
- A-02 原子核乾板による8方向火山ミュオグラフィと各観測器のデータ解析
宮本 成悟 1, 長原 翔伍 1, 森島 邦博 2, 中野 敏行 2, 小山 真人 3, 鈴木 雄介 3（1 東京大学, 2 名古屋大学, 3 静岡大学）
- A-03 宇宙線イメージング用原子核乳剤における潜像の安定化
谷 忠昭 1, 西尾 晃 2, 内田 孝幸 3, 森島 邦博 2（1 日本写真学会, 2 名古屋大学, 3 東京工芸大学）
- A-04 暗黒物質方向探索実験のための超微粒子原子核乾板の研究開発（依頼講演）
梅本 篤宏（名古屋大学）
- A-05 環境放射線耐性の強化に向けた原子核乾板の性能評価
榊原 亜美, 森島 邦博, 北川 暢子, 西尾 晃, 久野 光慧, 眞部 祐太（名古屋大学）
- A-06 ハロゲン化銀結晶サイズの異なる原子核乾板の最小電離粒子感度
西尾 晃, 桑原 謙一, 吉田 哲夫, 森島 邦博（名古屋大学）
- A-07 局在表面プラズモン共鳴を用いた光学顕微鏡による微

- 細放射線飛跡解析法 (依頼講演)
久下 謙一 1, 安達 考洋 1, 梅本 篤宏 2, 中 竜大 3, 小平 聡 4 (1 千葉大学, 2 名古屋大学, 3 東邦大学, 4 量子科学技術研究機構放射線医学総合研究所)
- A-08 X線顕微鏡による原子核乾板中事象の高空間分解能解析
笠置 歩 1,2, 仲澤 和馬 1, 吉本 雅浩 1, 西村 直己 1, Aung Nay Lin Nyaw 1, Phyo Myat Lin 1, 瀨瀬 陽香 1, 鈴木 雅己 1, 林 航志 1, 吉田 純也 3 (1 岐阜大学, 2 理化学研究所, 3 東北大学)
- A-09 核種同定のための X線顕微鏡による原子核乾板中飛跡の線密度測定
西村 直己 1, 仲澤 和馬 1, 吉本 雅浩 1, 笠置 歩 1,2, Aung Nay Lin Nyaw 1, Phyo Myat Lin 1, 瀨瀬 陽香 1, 鈴木 雅己 1, 林 航志 1, 吉田 純也 2,3 (1 岐阜大学, 2 理化学研究所, 3 東北大学)
- A-10 Optimization of Energy Calibration Source Based on Alpha Particles in Nuclear Emulsion
Phyo Myat Lin 1, Kazuma NAKAZAWA 1, Masahiro YOSHIMOTO 1, Aung Nay Lin Nyaw 1, Ayumi KASAGI 1,2, Junya YOSHIDA 2,3 (1 Gifu University, 2 RIKEN, 3 Tohoku University)
- A-11 NINJA 実験物理ランの原子核乾板における大角度飛跡の評価
内木 菜柚子 1, 鈴木 陽介 1, 河原 宏晃 1, 福田 努 1, 中野 敏行 1, 吉本 雅浩 2 (1 名古屋大学, 2 岐阜大学)
- A-12 低速イオン照射による AgBr:I ナノ半導体の発光応答の研究 (依頼講演)
白石 卓也 1, 星野 靖 2, 中 竜大 1 (1 東邦大学, 2 神奈川大学)
- A-13 超微粒子原子核乾板 NIT における荷電粒子のエネルギー損失量と速度に対する潜像形成効率の評価
佐伯 加奈 1, 中 竜大 1, 白石 卓也 1, 梅本 篤宏 2, 小林 龍太 2, 久下 謙一 3, 佐藤 修 2, 浅田 貴志 4, 小平 聡 5, 星野 靖 6 (1 東邦大学, 2 名古屋大学, 3 千葉大学, 4 グランサッソ国立研究所, 5 放射線医学総合研究所, 6 神奈川大学)
- A-14 現像の改良による現像銀粒子拡大手法の開発
中野 昇, 六條 宏紀, 中村 悠哉, 杉村 昂, 中野 敏行, 西尾 晃, 大関 勝久 (名古屋大学)
- A-15 次期原子核乾板実験のための自動フィルム塗布装置の開発現状
六條 宏紀, 杉村 昂, 林 熙崇, 中村 悠哉, 中野 昇, 中村 光廣 (名古屋大学)
- A-16 名古屋大学における原子核乾板自動塗布設備の構築に向けた研究 (4)
杉村 昂, 六條 宏紀, 林 熙崇, 中村 悠也, 中野 昇 (名古屋大学)
- ポスター発表
- P-1 ダブルハイパー核の全面探査法を実現する新型高速ステージの開発
林 航志 1, 仲澤 和馬 1, 吉本 雅浩 1, 笠置 歩 1,2, 西村 直己 1, Aung Nay Lin Nyaw 1, Phyo Myat Lin 1, 瀨瀬 陽香 1, 鈴木 雅己 1, 吉田 純也 2,3 (1 岐阜大学, 2 理化学研究所, 3 東北大学)
- P-2 インクジェットプリンターを用いた均質放射線線源の作製
久下 謙一 1, 鈴木 弘行 1, 岩本 康平 2 (1 千葉大学, 2 NEDO)
- P-3 金属元素を含まない物質の金属光沢に関する研究 - クリスタルバイオレット -
柿 拓馬, 山田 勝実 (東京工芸大学)
- P-4 透明導電膜を利用するアンテナにおける膜厚と導電率に対する放射効率の解析
山田 友里 1, 越地 福朗 1, 安田 洋司 1, 山田 勝実 1, 越地 耕二 2 (1 東京工芸大学, 2 東京理科大学研究推進機構)
- P-5 視差情報を利用したステレオ画像に対する可逆情報埋込み法
本村 遼太, 今泉 祥子 (千葉大学)
- P-6 界面活性剤保護ナノロッドによりキャリア変調したカーボンナノチューブ熱電複合膜
郷坪 実央, 草田 茂吉, 秦 慎一, 白石 幸英 (山陽小野田市立山口東京理科大学)
- 2) 日本写真学会第 39 回写真好きのための Online 講演会 東京都写真美術館写真展 日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る (令和 3 年 1 月 21 日 Online イベント)
【主催】一般社団法人日本写真学会「写真好き」のために定期講演会実行委員会
【講演会形式】東京都写真美術館製作動画の配信と学芸員トーク (Zoom 使用予定)
【参加条件】日本写真学会会員限定
【写真展開催会場】: 東京都写真美術館 3F
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
【プログラム】
1. 東京都写真美術館開催中の「日本初期写真史 関東編」の動画紹介
2. 担当学芸員 三井 圭司氏による解説と質疑
参加者: 31 名
- 3) 令和 2 年度 画像保存セミナー (令和 3 年 1 月 25 日, Web 開催, 2 月中講演公開)
日本写真学会画像保存部会 (画像保存研究会・デジタルアーカイブ研究会) は, 次世代に伝えるべき写真画像およびその他の画像記録物の確実な保存を目指し, そのための知識の普及と技術の確立を目的として, 11 学会・研究会協賛および東京都写真美術館協力のもと, 日本写真学会画像保存セミナーを開催した (第 37 回). 本年度は, 『非常時の画像保存 - 禍 (わざわい) と写真の保存』をテーマに美術館や博物館における防災に関する取り組みや災害からの復旧活動, 被災資料の救援システム, 災害資料の利活用, コロナ禍におけるおうち時間を活用した写真整理や来館が難しくなった中での画像資源の活用の試みについて, 事例に基づいた講演会を企画した.
【日時】: 2021 年 1 月 25 日 (月) * 事前収録の講演動画を配信
 オンライン懇談会 2021 年 1 月 25 日 (月)
 アーカイブ配信 視聴可能期間 (限定配信) 2021 年 2 月 1 日 (月) - 26 日 (金)
【主催】: 一般社団法人 日本写真学会 画像保存セミナー実行委員会セミナープログラム
講演 1. 史料ネットによる水損写真資料の保全・応急処置 - 「思い出」をレスキューするために
神戸大学 / 歴史資料ネットワーク 松下正和
講演 2. 一般家庭における写真整理の手法と事例
一般社団法人写真整理協会 浅川純子
講演 3. ミュージアム画像資源の多様な楽しみ方を開拓する
国立近現代建築資料館 / 東京国立博物館 田良島哲
講演 4. 災害資料の利活用をめざした写真撮影と複製製作
筑波大学 白井哲哉
講演 5. 高知県立美術館における石元泰博フォトセンターのアーカイブ活動と防災に関する取り組みについて
高知県立美術館 天野圭悟 / 塚本麻莉
講演 6. 大阪府北部を震源とする地震で被災した国立民族学博物館の復旧活動
国立民族学博物館 日高真吾
講演 6 件, 参加者数 74 名
- 4) page2021 オンラインカンファレンスセミナー 日本写真学会会

員向け特別参加費企画

page2021 オンラインカンファレンスセミナーの『【C2】色評価用LEDガイドラインプレセミナー』の写真学会会員向け限定の特別参加価格企画を実施した。

【日時】：2021年2月10日

- 5) 日本写真学会 天体写真個展 オンライン 講演会
—山野泰照 氏個展『虚空の如くなる心』オンライン解説付き鑑賞会—

【日時】：2021年3月26日(金)

【主催】：一般社団法人日本写真学会

【会場】：オンラインイベント

【参加条件】日本写真学会会員限定

【プログラム】

1. 個展の内容がイメージできる静止画 and/or 動画配信
2. 山野泰照氏の解説付きの作品紹介
*本講演会に向けて作品内容(タイトル, 撮影条件, 苦労した事など)の解説をします。
3. 質疑 *個展および作品などについての山野氏および参加者間での質疑や意見交換
進行：水口 淳(カメラ・写真技術解説家)

参加者：32名

3. 研究及び調査の実施(定款第5条(3))

3-1 委員会組織の拡充

2020年度はコロナ禍にあり、リアルな会合が持てず、中止した委員会・研究会もあったが、その状況を下記に記す。従来実績のある研究会やその企画行事の多くが、例えば、画像保存セミナーと「写真好き」のための定例講演会が、新たな挑戦であるオンライン開催を果たした。しかしながら、技術領域の多様化や産業構造の変化に対応すべく、2019年度に新規発足した「リアリティ再現研究会」(技術委員会)と「写真文化財(古写真)研究会」(写真文化拡大委員会)は、事実上の活動中止に追い込まれ、コロナ禍の影響を正面から受けた。現在次年度の活動計画及び体制含め、課題としている。

3-2 技術委員会

技術委員会の各組織は、以下のような活動を行った。

【画像入出力部会】

- ・画像入出力研究会
本年度は研究会としての活動は無かった。
- ・カメラ技術研究会
3回の研究会をオンラインで開催した。第27回カメラ技術セミナーは新型コロナウイルス感染対策のため中止とした。学会誌での特集に協力した。
- ・表現と技術研究会
本年度は研究会としての活動は無かった。

【アンビエント画像部会】

本年度は部会としての活動は無かった。部会メンバーから、学会誌への投稿や年次大会での発表がなされた。

【医用画像部会】

- ・医用画像研究会
メディカルイメージング連合フォーラム2021(委員長河田佳樹(徳島大)主催電子情報通信学会医用画像研究会に日本写真学会は共催。オンライン開催として2021年3月15-17日に実施された。
3月16日(火)セッション7(細胞画像, 他)にて、日本写真学会特別セッションが座長:教授 羽石秀昭先生(千葉大) / 日本写真学会のもと、6件の口頭発表が実施され盛況な討論が行われた。

【画像保存部会】

年次大会, 秋季大会の企画・運営に参加した。また、画像保存セミナー(画像保存研究会およびデジタルアーカイブ研究会共催)は令和3年1月25日, Web開催, 2月末まで講演の動画を公開した。

- ・画像保存研究会

令和2年度画像保存セミナー実行委員会に参画し、セミナーの企画・運営を行った。

- ・デジタルアーカイブ研究会
- ・カラーマネージメント関連のデジタルアーカイブワークショップを企画した(令和2年7月, (株)インフォーマージュにて開催予定)がコロナ禍により延期した。
- ・令和2年度画像保存セミナー実行委員会に参画し、セミナーの企画・運営を行った。

【アンビエント技術部会】

- ・アンビエント技術研究会
コロナ禍, 本年度の研究会の活動は停止状態であった。この間, 学会を支える中心企業メンバーの本技術テーマに関するアクティビティが低いという本研究会の問題について, 新しい技術領域への転換も含めて, 研究会委員の間で議論を進めてきた。この議論をさらに進め, 本学会の材料・プロセス技術分野の再編を図るよう検討を進めている。

【科学写真研究会】

- ・年次大会・秋季研究発表会での原子核乾板に関する研究発表の勧誘で, この分野の拡大を図った。年次大会は新型コロナウイルスの影響で縮小され発表がなかったが, オンラインで行われた秋季研究発表会では関連する23件の発表を得た。学会誌への投稿や解説執筆を勧誘し, 英文誌BSPJにこの分野の投稿論文2件の掲載を得た。日本写真学会協賛で開催予定の固体飛跡検出器研究会は, 新型コロナウイルスの影響で開催のめどがたたなかった。

【天体写真研究会】

- ・天体写真技術研究会運営委員会にて, 2020年度の研究会の進め方, および2020年度に実施する第8回研究会および第9回研究会の内容と追加の見学会を検討していたが, いずれも対面での企画内容の為, オンラインでの実施がかなわず, メール審議のみとなり, 実質的な研究会活動は出来なかった。感染防止状況を踏まえて, 見学会(「画像編集の最新状況と現場見学」(IMAGICA Lab.))の実施を行う予定である。

【写真史研究会】

- ・新型コロナウイルス感染拡大の為, 研究会の開催が出来なかった。

【教育への写真応用研究会】

- ・研究会4年目につき, 子どもを対象として写真を利用した第2回ワークショップの実践を計画していたが, 新柄コロナウイルス感染拡大の為, 開催が出来なかった。

【リアリティ再現研究会】

- スチル撮影された画像の多くは紙へのプリント出力をしていたが, ディスプレイ技術の発展に伴いプリントせずに鑑賞することが増えてきている。特に4K, 8Kの解像度やHDRの高輝度に対応したディスプレイの登場によって, よりリアリティのある鑑賞が可能になってきた昨今の状況に鑑み, リアリティ再現研究会を発足し, 活動目的・活動内容の検討を行った。なお, 2020年8月下旬に研修会主催のセミナー・ワークショップを開く予定であったが新型コロナの影響もあり, バーチャル開催も含め計画を中止するに至った。

【進歩レビュー分科会】:

- 専門分野別の技術進歩年次レビュー「2019年の写真の進歩」作成を行い, 学会誌(82巻3号)に特集記事として掲載した。

3-3 写真文化拡大委員会

写真文化拡大委員会の各組織は、以下のような活動を行った。

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

- ・202年度計画の現地見学, 鑑賞をメインにした「写真好き」のための定例講演会の実施が新型コロナ感染拡大の為, 実施が困難となり, オンラインでの企画検討を行った。
- ・第39回「写真好き」のための写真好きのためのオンライン講演会を「東京都写真美術館写真展 日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」として, 令和3年1月21日に実施した。
- ・天体写真個展「山野泰照 氏個展『虚空の如くなる心』」のオ

オンライン解説付き鑑賞会（2021年3月26日）の企画に参画した。

【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

本年度も10月開催に向けてPHOTONEXT 技術アカデミーを計画し、講演者を選定するなど準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、PHOTONEXT2020 自体が開催中止になってしまったため、本年度の技術アカデミーはやむなく中止とした。

【CP + 実行委員会】

・CIPA との関係から、例年 CP + において日本写真学会ブースでの学会広報展示と学会活動の PR を行い、新規会員獲得の場としてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昨年度の CP + 2020 中止に続いて CP + 2021 はオンライン開催となったため、本年度も実施出来なかった。

【写真技術セミナー実行委員会(写真好きのためのワークショップ)】

・写真好きのための講演・ワークショップとして、写真の楽しさを学び、写真の世界を広げる実習を通して、写真文化拡大を担って頂く『写真のエキスパート』を増やしていく目的で、「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」講習会を企画し、2020年度実施を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で開催できなかった。

【新規プリンティング技術研究会】

page2021 オンラインカンファレンスセミナーの『【C2】色評価用 LED ガイドラインプレセミナー』の写真学会会員向け限定の特別参加価格の企画し、実施した。

【写真文化財（古写真）研究会】

・2019年度に、第37回写真好きのための定例講演会「古銀塩乾板の復元（旧官営製鐵所・八幡）—明治時代の世界遺産の写真がよみがえる—」をきっかけとして、写真文化財（古写真）に関するプロジェクトの検討を開始、企画検討委員会を組織して「古写真文化財（世界遺産級の乾板）の超精密デジタル画像復元に関する材料・システムの研究」を活動目的に定めたのを受けて、本年度は研究会の主査と委員を決め、論文投稿と実態調査を軸とする実施計画の具体化を進める方針だったが、新型コロナウイルスの影響を受けて進捗が無かった。

4. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 東京写真月間 2020（令和2年6月1日写真の日を中心に5月～7月に亘り開催される写真イベント：（公社）日本写真協会主催、日本写真学会以下17団体協賛）は、新型コロナウイルス感染症防止の為中止。
- 2) PHOTONEXT2020 技術アカデミー（2020年6月9日（火）パシフィコ横浜 2F204 室：日本写真学会・写真感光材料工業会共催、（株）プロメディア後援、（公社）日本写真協会、（一社）日本写真文化協会、（協）日本写真館協会、（一社）日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会 協力）は、新型コロナウイルス感染症防止の為中止となった。
- 3) 画像関連学会連合会第7回春季大会：日本画像学会、日本印刷学会、日本写真学会共催；2020年6月3日～6日、京都工芸繊維大学 60 周年記念館他は、新型コロナウイルス感染症防止の為中止となった。
- 4) 第57回アイソトープ・放射線研究発表会（2020年6月29日（月）～6月30日（火）シンポジウムライブ講演・討論、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会他28学会が協賛）は新型コロナウイルス感染症防止の為中止となった。
- 5) 第16回光機能性材料セミナー（2020年8月予定）日本化学会、応用物理学会、高分子学会、光化学協会、日本画像学会、電気化学会、有機合成化学協会、画像電子学会、日本光学会、照明学会、日本色彩学会、日本印刷学会、日本表面科学会、電気学会、色材協会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、日本オプトメカトロニクス協会、日本液晶学会 協賛）は、新型

コロナ感染症防止の為中止となった。

- 6) 第28回カメラ技術セミナー（2020年11月予定）、照明学会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、電気学会、日本物理学会、日本印刷学会、日本機械学会、画像電子学会、日本画像学会、情報処理学会、精密工学会、応用物理学会、日本化学会 協賛）は、新型コロナウイルス感染症防止の為中止となった。
 - 7) 令和2年度画像保存セミナー（2021年1月25日（月）オンラインセミナー（演動画を配信）／オンライン懇談会）およびアーカイブ配信）、協賛：日本写真芸術学会／公益財団法人日本博物館協会、公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター、日本アーカイブス学会、文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財写真技術研究会、情報保存研究会、一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会、画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会、協力：東京都写真美術館、後援：文化財保存修復学会）
 - 8) 画像関連学会連合会主催国際会議 ICAI2020（2020年11月予定：International Conference on Advanced Imaging 2020 / Print-4Fab (Printing for Fabrication) 2020）は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止となった。
 - 9) メディカルイメージング連合フォーラム 2021（3月15日（月）～17日（水）宮古島宮古島マリナターミナルビルは、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、オンライン開催となった。
 - 10) 西部支部 特別講演会&展示（2020年12月予定、京都工芸繊維大学協力）は、新型コロナウイルス感染症防止の為中止となった。
 - 11) 日本写真学会・日本印刷技術協会共催 page2021Online カンファレンス【C2】色評価用 LED ガイドラインプレセミナーを写真学会会員向け 2021年2月10日）
5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条（5））
- 5-1 2020年（令和2年）度学会賞の授与
2020年8月26日オンライン授賞式において、2020年（令和2年）度学会賞の授与を行った。学会 賞受賞者は次の通りであった。
- | | |
|------|---|
| 名誉賞 | 該当なし |
| 功績賞 | 岩崎 仁（元京都工芸繊維大学） |
| 学術賞 | 白石 幸英（山陽小野田市立山口東京理科大学） |
| 技術賞 | 新田 和馬・一谷 修司・将積 直樹（コニカミノルタ株式会社） |
| 技術賞 | 佐藤 裕之・藤屋 隆明（株式会社リコー）・鳥海裕二（リコーイメージング株式会社） |
| 論文賞 | 久下 謙一・安達 考洋（千葉大学）、梅本 篤・中竜大（東邦大学）・小平 聡（量子科学技術研究機構放射線医学総合研究所） |
| 進歩賞 | 梅本 篤宏（名古屋大学） |
| 進歩賞 | 宮本 成悟（東京大学） |
| 東陽賞 | 矢口 博久（千葉大学） |
| 会長表彰 | 該当無し |
- 5-2 2020年（令和2年）度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励金（写真研究奨励金）授与授賞式において、2020年（令和2年）度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った。
交付対象者 岩本 康平（元セイコーエプソン、写真学会幹事）
- 5-3 2020年（令和2年）度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与授賞式において2020年（令和2年）度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与を行った。
交付対象者 白石 卓也（東邦大学）
- 5-4 2021年（令和3年）度学会賞選考
2021年（令和3年）度の学会賞は、各選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。
- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 名誉賞 | 該当無し |
| 功績賞 | 甲田 謙一（日本大学） |
| 功労賞 | 白山 眞理（日本カメラ財団） |
| 功労賞 | 中川 邦弘（三菱製紙） |
| 学術賞 | 今泉 祥子（千葉大学） |
| 技術賞 | 村山 恭二・細谷 剛・田嶋 智之（OM デジタルソリューションズ） |

- 技術賞 田中 康一・楠本 修也(富士フィルム), 水澤 哲也(富士フィルムソフトウェア) 論文賞 山本 大輔(足柄製作所)
- 論文賞 山田 勝実・常安 翔太・越地 福朗・内田 孝幸・佐藤 利文(東京工芸大学)
- 進歩賞 西尾 晃(名古屋大学)
- 進歩賞 吉本 雅浩(岐阜大学)
- 東陽賞 谷 忠昭(日本写真学会フェロー, 元富士フィルム)
- 会長表彰 該当無し
- 5-5 2021年(令和3年)度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
2021年(令和3年)度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金は, 選考委員会の推薦を受け, 次のように理事会で決定した.
交付対象者 岩崎 仁(日本写真学会フェロー, 元京都工芸繊維大学), 細矢 剛(共同; 国立科学博物館)
- 5-6 2021年(令和3年)度日本写真学会小島裕研究奨励金交付対象者の選考
2021年(令和3年)度日本写真学会小島裕研究奨励金は, 選考委員会の推薦を受け, 次のように理事会で決定した.
交付対象者 今泉 祥子(千葉大学), 貴家 仁志(共同)(東京都立大学)
交付対象者 穂本 光弘(山陽小野田市立山口東京理科大学), 福田 枝里子(共同)(九州産業大学)
6. その他目的を達するために必要な事項(定款第5条(6))
- 6-1 総会(1回)
2020年(令和2年)6月4日(木), (ホスト)東京工業大学科学技術創成研究院 未来産業技術研究所において一般社団法人化に移行後9回目の定時社員総会を上記会場をホストとしてオンラインでの総会が開催され, 2019年(平成31年)度事業報告, 2019年(平成31年)度決算報告, 2019年(平成31年)度会計監査報告, 2020年(令和2年)度事業計画案, 2020年(令和2年)度収支予算案, 2020年(令和2年)度役員等の選任(臨時理事会による会長・副会長選任の報告含む), 会員の除名の計6件の議案が承認された.
- 6-2 理事会(7回)
隔月定例に開催し, 本学会の運営に必要な事項を審議した.
- 1) 会務分担
役員及び会務の分担は次の通りであった.
・理事:
会長(写真学会代表理事, 画像連合会代議員)
中野 寧(コニカミノルタ科学振興財団)
副会長(写真学会代表理事, 企画委員長, 編集委員長)
山田勝実(東京工芸大学)
副会長(写真学会代表理事, 技術委員長, 画像連合会代議員, 光機能性材料研究会主査) 加藤隆志(富士フィルム)
総務理事, 広報委員長
松澤良紀(OM デジタルソリューションズ)
西部支部, 合同秋季大会実行副委員長
白石 幸英(山陽小野田市立山口東京理科大学)
財務委員長, アンビエント技術研究会副主査・2019年次大会実行委員 飯野裕明(東京工業大学)
庶務委員長, 進歩レビュー分科会主査, 文化財写真保存ガイドライン検討G主査
吉田英明(OM デジタルソリューションズ)
画像保存部会長 大関勝久(名古屋大学)
写真技術セミナー, デジタル写真基礎講座
甲田謙一(日本大学)
PHOTNEXT 技術セミナー, カメラ技術研究会, 写真好きのため定例講演会 鈴木博文(ニコン)
アンビエント技術部会長, アンビエント技術研究会主査, 国際化委員長/ICAI 委員 半那純一(東京工業大学)
新規プリンティングセミナー担当
- 郡司秀明(日本印刷技術協会)
2019年次大会実行委員長・プログラム委員長, 編集副委員長
久下謙一(千葉大学)
秋季大会実行委員会 砂川智英(三菱製紙)
天体写真技術研究会副主査, 写真のエキスパートになろう講習会委員 蒔田 剛(キヤノン)
技術副委員長, 科学写真研究会 吉田哲夫(名古屋大学)
写真文化拡大副委員長, 写真のエキスパートになろう講習会委員 西澤 敦(セイコーエプソン)
画像保存研究会・画像保存セミナー実行委員会委員長
山口 孝子(東京都写真美術館)
画像保存研究会・デジタルアーカイブ研究会主査, リアルティ再現 清野晶宏(IMAGICA Lab.)
財務副委員長 今泉 祥子(千葉大学)
・監事
写真史・写真技術史研究会副主査
高田 俊二(千葉大学)
画像入出力部会長 豊田 堅二(日本大学)
・フェロー
写真文化拡大委員長, 写真好き講演会実行委員長, 表現と技術研究会他 小林 裕幸(千葉大学)
光機能性材料研究会 谷 忠昭(元富士フィルム)
・幹事:
広報副委員長 桑山 哲郎(千葉大学)
画像保存部会・画像保存研究会 高橋 則英(日本大学)
アンビエント画像部会長 津村 徳道(千葉大学)
医用画像副部会長 桑原 孝夫(富士フィルム)
アンビエント技術研究会副主査・光機能性材料研究会 稲垣 由夫(富士フィルム)
アンビエント技術研究会副主査 宮本 公明(富士フィルム)
アンビエント技術研究会・光機能性材料研究会 内田 孝幸(東京工芸大学)
写真文化拡大委員会・画像入出力部会
大川 泰輔(セイコーエプソン)
広報委員会ホームページ担当 大川 裕輔(千葉大学)
写真文化拡大委員会 松下 艶子(ニコン)
年次大会実行委員会 田中 里実(日本大学)
科学写真研究会副主査 中 竜大(名古屋大学)
科学写真研究会 河合 清(富士フィルム)
・事務局長(兼)会勢拡大委員長 山岸 治
- 2) 役員研修会(8月)
会長以下の役員が研修会を開催し, 本学会の会勢拡大の具体的な進め方について議論した.
(2020年(令和2年)8月24日(月)(ホスト)東京工業大学科学技術創成研究院 未来産業技術研究所としたオンライン研修会を行った.
・役員研修課題: 『2020年新しい日本写真学会活動について』～新型コロナウイルス感染症災禍の影響と「学会活動の新しい様式」～について
※新しい日本写真学会活動についての課題, 施策, 実施状況の報告と議論を行う.
・2020年新しい日本写真学会活動について, 以下の3項の課題について議論を行った.
1. 新時代オンライン学会活動の推進
2. 新時代オンライン学会活動として, 学会ホームページの利用拡大
3. 日本写真学会100周年記念事業について
・質疑・まとめ
以上の各課題に関する提案と役員での具体化に向けた討議を行った.
- 6-3 支部の運営に関する会議
1) 西部支部企画委員会
西部支部活動として西部支部会員向けのイベント企画に関する

協議を行った。

6-4 各委員会

1) 役員等選考委員会

役員等の選考を行った。

2) 人事委員会

学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い、来年度の処遇を決定した。

3) 庶務委員会

2019（令和元）年度事業報告並びに2020（令和2）年度事業計画案の総会承認を得た。活動計画表、組織系統図を更新した。2020（令和2）年度事業報告案並びに2021（令和3）年度事業計画案を作成し、理事会承認を得た。

4) 財務委員会（1回）

平成31年度決算報告並びに令和2年度予算案の総会承認を得た。学会各事業活動の改善状況、特に財務改善の検討を行った。令和2年度決算報告並びに令和3年度予算案を作成し、理事会承認を得た。

5) 編集委員会（4回）

学会誌の編集方針、特集記事の企画検討、「解説」、「口絵」、「写真のある美術館・博物館・資料館」などの著者選定を行った。投稿論文の勧誘を行い、掲載論文数の増加を図った。英文論文誌 BSPIJ (BULLETIN OF THE SOCIETY OF PHOTOGRAPHY AND IMAGING OF JAPAN) を Web 版として発行した。

6) 技術委員会

本年度は新型コロナウイルスの影響があり、各研究会のイベント、セミナーも延期・中止を余儀なくされ、計画した具体的活動が停滞したことは否めない。その中でも、年次大会のオンライン開催を足掛かりとして、各研究会での研究会活動の活性化のための議論を展開した。新型コロナウイルスの影響は、今後も継続されることが予想されるため活動方針を代表理事会等において議論し、活動の方向づけを実施した。

7) 写真文化拡大委員会

新型コロナウイルスの影響により委員会傘下の各組織の活動は制限され、オンラインでの催しを検討した。その結果、「写真好き」のための定例講演会を2回開催することができた。

8) 企画実行委員会

代表理事会にて企画担当副会長も参加し、オンライン形式での学会賞授賞式や秋季大会等の企画ならび実行を検討した。

9) 国際交流委員会

2020年11月に開催を予定していた国際会議 ICAI2020 / Print4Fab2020 は新型コロナウイルスの影響から、Print4Fab と統合開催の ICAI は延期し、2021年10月に ICAI2021 / Print4Fab 2021 を日本で開催することに決定。ICAI2020 は、Print4Fab2020 と分離して、予稿集発行のみとする形式で実施し（国際会議発表の実績となる）、2020年12月に予稿集を発行した。

ICAI2021 / Print4Fab2021（2021年10月千葉幕張メッセ）については、画像電子学会・日本印刷学会・日本画像学会・映像情報メディア学会と共催で実行委員会を組織し、11月から活動を開始した。対面形式での開催を予定するが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン開催など、形式や企画の変更があり得ることをアナウンスしながら、2月末から講演募集を開始した。

10) 広報委員会

ホームページ改革推進委員会では、インターネットの活用を進め、会員の利便性など会員向けサービスの向上を順次進めた。会員管理システムでは、年会費だけでなく各イベントの参加費用もホームページ内での支払いを可能にし、クラウドとの連携によるファイル・ドキュメントの共有化をすすめ、会員の利便性を向上させた。会員ページと秋季大会などのオンラインイベントとの連動も行った。また、速報として2021年学会賞各賞および研究奨励金受賞者の発表を3月中旬に行った。

11) 会勢拡大委員会

役員研修課題：『2020年新しい日本写真学会活動について』～新型コロナウイルス感染症災禍の影響と「学会活動の新しい様式」～についての議論をベースに、オンライン大会、オンラインセミナーおよび会員限定オンラインイベントなど活動を通して、現会員への情報提供による会員継続とオンラインの利便性を生かした遠方所在者や非会員向けの参加勧誘での入会を目標に、会勢拡大を図ることとした。

6-5 特務担当

1) 画像関連学会連合会

画像関連学会連合会代議員に代表理事2名（中野会長、加藤副会長）および山岸事務局長が幹事として参画して、2020年画像関連連合会合同春季大会、ICAI2020（画像関連連合会国際会議）およびその他の連合会課題に関して、討議を行い、理事会承認の元に、連合活動を推進した。

2) 科学技術振興機構

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づいて、昨年度に引き続き、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った。

3) 日本写真学会100周年記念事業

2025年日本写真学会創立100周年事業の「テーマ」、「実行委員体制」、「100周年記念事業」の各案を写真学会代表理事会および役員研修会で検討した。2023年東京工芸大学創立100周年および2024年写真誕生200周年の節目の時期に、東京工芸大学とのコラボレーションについての検討を行うこととなった。

7. 会勢

本年度末（2021年3月31日現在）における会員の異動状況は、次の通りである。

	本年度末 (2021年3月31日現在)	前年度末 (2020年3月31日時点)	増減
正会員	643名	673名	30名減
賛助会員	34社	37社	3社減
購読会員	16社	16社	増減無し
合計	693名	726名	33名減 以上

【第2号議案】2020年（令和2年）度決算案・会計監査報告案（P000 ページ参照）

【第3号議案】2021年（令和3年）度事業計画（案）

1. 基本方針（定款第4条）
 - 1) 新型コロナウイルス感染症に対応し、かつ2020年度に実施した新しい学会活動の良い面を生かしていく。2021年度は、写真学会創立100周年（2025年）を見据え、写真技術領域と写真表現領域を大きな両輪として、新しいテーマを取り入れた更なる進化と更なる領域の拡大を目指し、施策の展開を行う。
 - 2) 事業収支改善のために研究講演事業、学会誌刊行事業、法人管理事業の確実な遂行により回復基調を継続的に実施できる事業計画の立案を行う。
 - 3) 写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大の為に、①高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の技術としてのアンビエント技術研究会、光機能性材料研究会、②写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会、③写真文化拡大のための技術として写真文化拡大部会の6部会に天体写真技術研究会と科学写真研究会および新規立上げの写真文化財研究会、リアリティー再現研究会、写真史研究会・教育への写真応用研究会を加えた部会・研究会活動を通して会員拡大を行う。
これらの技部会活動推進の為、年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び画像関連学会連合会での所属学会との連携強化と関連する工業会・協会との連携強化を目指す。
 - 4) 会勢拡大＝会員増加策を研究会および実行委員会単位で課題化し、施策展開を行う。
 - 5) 写真及び画像に関する技術領域を拡大し、研究成果の発表及び関連情報提供の為、写真学会誌の充実と学術図書の刊行を行う。
 - 6) 会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う。
 - 7) 以下のことを特に本年度の重要課題として位置付け、行動する。
 - ①画像入出力部会、アンビエント画像部会、医用画像部会、画像保存部会、アンビエント技術部会、写真文化拡大部会の6つに再編された技術部会と各研究会とセミナー等の実行委員会を組織化して、調査・研究の充実化を図る。
 - ②写真文化拡大委員会を組織化して、写真文化の裾野拡大施策の充実化を図る。
 - ③画像関連学会連合会合同秋季大会の実施と次年度合同年次大会の企画を行う。
 - ④各技術部会での新規技術領域の調査・研究の充実化を図る。
 - ⑤写真好きの写真愛好者を対象にした、写真知識・写真文化の会勢拡大を図る。
 - ⑥学会誌の充実の為、英文論文誌の発行及び投稿数の拡大を図る施策を検討する。
 - ⑦ホームページおよび会員管理システムでの会員向け情報発信と会員サービスの向上を図る。
2. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））
 - 2-1 学会誌の刊行
 - 1) 学会誌を年間4冊発行する。
 - 2) 年次大会や秋季研究報告会の要旨集を学会誌に掲載し発行する。
 - 3) 論文投稿を積極的に勧誘し、親切な審査により質の高い論文を数多く掲載する。あわせて投稿料収入の増加を図る。
 - 2-2 英文論文誌「Bulletin of the Society of Photography and Imaging of Japan」の刊行
 - 1) 6、12月発行予定の英文の論文誌をweb誌として発行し、論文の投稿を積極的に呼びかける。
 - 2) 英文誌の魅力を高め投稿数を増加させるため、掲載された論文をすぐにJ-Stageにアップロードし、DOIを得られるようにす

- る。
3. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））
 - 3-1 研究発表会、講演会などの実施

2020年度は、新型コロナウイルス感染防止によるリアルの発表会、展示会、講演会、見学会など中止または延期が続く中、「新しい学会活動」を模索検討する中から、一部の講演研究事業で、3種のオンラインでの実施の実績を作ることが出来た。2021年は、引き続き新型コロナウイルス感染症への対応と感染状況を踏まえて、2020年に実施した新しい学会活動の良い面を生かすとともに、感染防止状況を踏まえたリアルな発表会、展示会、講演会、見学会の二方面での研究発表会、講演会の検討を各研究会、実行委員会と協議して進める。又、写真学会の活動を写真技術領域と写真表現領域を大きな両輪として、新しいテーマを取り入れた更なる進化と更なる領域の拡大を目指す。

 - 1) 日本写真学会材料系研究会の今後の方向について、材料系のアカデミアと企業の研究者での検討を開始した。（3月から開始、年次大会までの方向付けを目指す）。
 - 2) PHOTONEXT2021 技術アカデミー（2021年6月15日パシフィコ横浜）は、新型コロナウイルス感染防止策を行う前提で、対面でのアカデミー実施を検討する。
 - 3) 写真学会2021年度年次大会（春季大会）を既募集分野に広い範囲での新たなキーワードでの募集分野を取り入れた更なる進化と更なる領域の拡大を目指した大会としての実施に向けて代表理事会で議論を開始した。7月～8月を目標に実施を検討する。
 - 4) 画像関連学会連合会主催国際会議 ICAI2021（International Conference on Advanced Imaging 2021 / Print4Fab2021（Printing for Fabrication 2021）を2021年10月4日～8日千葉幕張メッセでの開催を目標に準備を行う。
 - 5) 2021年度カメラ技術セミナー（2021年11月12日）実施に向け検討を開始する。
 - 6) 令和3年画像保存セミナー（2021年秋～冬 オンライン開催）実施に向け検討を開始する。
 - 7) 光機能性材料セミナー オンラインで2021年12月に開催予定。
 - 8) 「写真好き」の為の定例講演会は、オンラインでの実施企画の検討と年度後半でのリアル開催を視野にした2020年度企画の実施検討を行う。
 - 9) 天体写真技術研究会は、昨年3月実施予定であったイマジカ編集現場見学の再開時期の検討と今後の研究テーマの見直し・方向付けを研究会で行う。
 - 10) リアリティー研究会セミナー（2022年2月）を検討する。
 - 11) 西部支部講演会；ICAI2021の実施状況を踏まえて、2021年度内（京都工芸繊維大学）の実施可能性の検討を行う。
 - 12) 印刷技術協会・写真学会共催イベントは、page2022に合わせて検討する。
 - 13) デジタルアーカイブワークショップについては、2022年度の開催に向けて検討する。
 - 3-2 新規事業

2021年度基本方針第1項「新型コロナウイルス感染症に対応し、かつ2020年度に実施した新しい学会活動の良い面を生かしていく。2021年度は、写真学会創立100周年（2025年）を見据え、写真技術領域と写真表現領域を大きな両輪として、新しいテーマを取り入れた更なる進化と更なる領域の拡大を目指し、施策の展開を行う。」を従い、今後の研究会の方向性の検討と新規研究会（技術講座）の立上げと既存事業の充実を通して事業の再編を検討する。又、2025年創立100周年を見据えての検討を行う。

特に、以下の検討を行う。

 - (1) 材料系研究会の今後の方向付けを、材料系アカデミアと企業研究者で検討を行い、年次大会を目 標に具体化を行う。
 - (2) コロナで遅れている新規のリアリティー研究会セミナー（2022年2月）とデジタルアーカイブワークショップ（2022年度インフォーマージュ）の開催を再度目指す。

- (3) 画像保存・修復ワークショップの実施検討を行う。
- (4) 天体写真技術研究会の今後の研究課題の方向付けを行う。
- (5) 科学写真研究会
- ・原子核乾板技術分野を核に科学写真系研究における活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動の展開とセミナー等の講演研究事業の実施を企画する。年次大会、秋季大会および国際学会での発表、学会誌への投稿を関係者に促す。固体飛跡検出器研究会との連携を進め、研究発表会に協賛し、その他の協力事業を推し進める。
 - ・原子核乾板に関連する内容のこれまでの学会発表を精査し、発表者への論文への支援を行って、学会誌への投稿を積極的に促す。日本写真学会誌に「飛跡を追う」の連載特集を組み、その解説の執筆を依頼するとともに、特集への論文投稿を勧誘する。
 - ・原子核乾板に限定せず、放射線検出・素粒子検出の関連する協会分野の研究者への働きかけを強化し、融合を進めて、研究の活性化を図る。
- (6) 一昨年度に新設した「写真史研究会」と「教育への写真応用研究会」活動体制の見直しを、写真文化拡大委員長を中心に検討する。
- (7) 大学関係者の会員増活動の継続発展を行う。
- ・各大学への投稿勧誘文書を作成し会長名で発行する様検討する。
 - ・DOI 所得のための経費見直しを行うと共に、審査・投稿料軽減の価格を検討する。
 - ・年次大会・秋季大会や講演会・セミナー参加者への投稿勧誘策を検討する。

4. 研究及び調査の実施（定款第5条（3））

4.1 技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け、以下の活動を行うことにより、本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる。

特に、本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化並びに写真で培った基盤技術の深耕・展開と写真愛好家層への学会活動の充実をはかるために、一昨年に新設した写真史研究会、教育への写真応用研究会の活動を写真文化拡大委員会と協働して活性化させる。

【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化させる。

- ・画像入出力研究会：年次大会の企画・運営に参加する。
- ・カメラ技術研究会：年8回の研究会を開催する。「カメラ技術セミナー」を企画・運営する。学会誌の「2020年のカメラ」、「写真の進歩」などの執筆に協力する。年次大会の運営に協力する。
- ・表現と技術研究会：研究内容の検討を行う。

【アンビエント画像部会】

- ・アンビエント画像研究会：年次大会・秋季大会の企画・運営に参加する。

【医用画像部会】

- ・医用画像研究会：他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを共催する。本フォーラムは医用画像に関連するイメージサイエンス・画像情報理論・像形成理論、人体その他の生体の画像の生成理論と実現技術に関する学会。また、今年度より医用画像と社会・健康との関係を模索するために、調査を行う。

【画像保存部会】

下記、2つの研究会とともに画像保存への取り組みを推進するとともに、学会HP、学会誌にて活動を広く周知する。

- ・画像保存研究会：2021年度画像保存セミナーを企画・実行する。勉強会・ワークショップ実施の準備を行う。
- ・デジタルアーカイブ研究会：デジタル画像の保存とその技術についての勉強会を実施

し、急速に進展するデジタル分野の情報を収集、発信する。画像保存研究会と協力して、2021年度の画像保存セミナーを企画・実行する。昨年延期したカラーマネージメント関連のワークショップの2022年度（次年度）の開催を目指し検討する。

【アンビエント技術部会】

- ・写真学会の材料系研究会の今後の方向付けを、材料系アカデミアと企業研究者で検討を行い、年次大会を目標に具体化を行う。
- ・光機能性材料研究会
第17回光機能性材料セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

【科学写真研究会】

原子核乾板技術分野を核とした活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動の展開とセミナー等の講演研究事業の実施を企画する。年次大会、秋季大会および国際学会での発表、学会誌への投稿を関係者に促す。固体飛跡検出器研究会との連携を進め、研究発表会に協賛し、その他の協力事業を推し進める。銀塩写真技術の専門家と原子核乾板利用者との技術交流を深める。

【天体写真研究会】

天体写真技術研究会は、学会員向けの「画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうこと」を目指した研究会を実施している。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、活動が出来なかったが、今年度は、今後の研究会の方向付けを再検討して、研究会課題の見直しとテーマの具体化を図る。

【写真史研究会】

活動体制の見直しを図り、日本写真学会年次大会への写真史・技術史研究発表、並びに、学会誌への論文投稿誘致を推進する。「写真好き」のための定例講演会の企画へ協力していく。

【教育への写真応用研究会】

活動体制の見直しを図り、教育、福祉、医療など幅広い分野で写真を利用した教育の実践と成果を発信し、普及活動を行う。また、ワークショップの開催についてのアドバイスや、講師派遣などの要望に応える。

【リアリティー再現研究会】

昨年度実現に至らなかった研究会主催のセミナー・ワークショップを2022年2月を目安に行い、会員に対しディスプレイメーカーからのアドバイスやカメラメーカーとの議論を通じ、スチル画像鑑賞のためのディスプレイの最適設定について共有する場作りを行う。

【進歩レビュー分科会】

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い、学会誌上で報告し、学会ホームページに掲載する。

4.2 写真文化拡大委員会活動の実施

コロナ禍においても、目的である、会員が気軽に写真表現、写真撮影の工夫などを学び、発表できる場を提供し、広く社会に写真文化の啓蒙および教育ができるような活動方法を検討し、実施する。

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

- ・写真文化拡大委員会の方針に則り、2012年から続く「写真好き」のための定例講演会計40回の参加者および新規対象者に興味を持って頂ける企画の充実化を図る。5回／年の実施を目標にする。

【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

- ・カメラシステムの最新技術紹介をはじめ、変革期である写真業界とコロナ禍におけるユーザー視点の変化を背景とするカメラの現状を総括するような講演を企画する。また、業務用途からプライベートでも役に立つライティングテクニックの紹介、ドローンによる新たな映像表現と撮影領域の拡大方法、プロ写真家が実践する機材選びや映像表現方法の紹介など、撮影から映像作品の活用のノウハウを幅広く

いユーザー層に提供できるような構成とする。共催の写真感光材料工業会や後援の(株)プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図る。

【CP + 実行委員会】

- ・CIPA との関係から、日本写真学会単独ブースでの学会広報展示と学会活動のPRを行い、新規会員獲得の場とする。
⇒CP + 2021 はオンライン開催となり、写真学会ブースでのPR活動は出来なかったが2022では、写真学会ブースでのPR企画の検討を行う。

【写真技術セミナー実行委員会(写真好きのためのワークショップ)】

- ・写真文化拡大委員会の方針、すなわち「写真」の文化のより広い普及を担う人材(写真のエキスパート)の育成を目的にした講習会を2019年度に開催した。具体的には「写真」の基礎的理論や技術の学習、自分の作品をよりよくするためのプリント技術の実習、自分の写真作品の多くの人への展示を通して自身の写真の世界を広げるとともに写真の楽しさを知ってもらう講習会「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」として、「写真を作る」主体の写真好きのためのワークショップに「写真を観る」ことを加えた講習会を実施した。2020年度も、「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」の第二弾を企画したが、新型コロナウイルスの影響で開催には至らなかった。ワークショップをオンラインで実施する方法を検討し、本年度は開催する。

【新規プリンティング技術研究会】

- ・デジタル印刷における最新の写真表現技術動向を基礎から応用まで解説するプリント技術セミナーを企画実施する。

【写真文化財(古写真)研究会】

- ・主査と委員を決め研究会名称も見直す(括弧無しに)など、体制の確立を図り本格的に始動する。実施内容は、古写真文化財(世界遺産級の乾板)の超精密デジタル画像復元技術に関する論文の投稿と、研究計画の実質第1年次活動として、当該技術に関する材料・システムの実態調査をターゲットを絞って行う。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款第5条(4))

5-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 画像関連学会連合会(日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会)代議員会を引き続き推進する。2021年度は、ICAI2021の実施を最大課題として取り組む。
- 2) リアリティ研究会セミナー(2022年2月下旬東京工芸大学、画像関連学会協賛)
- 3) PHOTONEXT 技術アカデミー(2021年6月15日、パシフィコ横浜、写真感光材料工業会
共催、協力:(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会、(一社)日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会)
- 4) カメラ技術セミナー(2021年11月12日)照明学会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、電気学会、日本物理学会、日本印刷学会、日本機械学会、画像電子学会、日本画像学会、情報処理学会、精密工学会、応用物理学会、日本化学会14学協会協賛)
- 5) 画像保存セミナー(2021年秋～冬オンライン)協賛:日本写真芸術学会、公益財団法人日本博物館協会、公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター、日本アーカイブス学会、文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財写真技術研究会、情報保存研究会、日本オプトメカトロニクス協会、画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会、協力:東京都写真美術館、後援:人文化財保存修復学会予定)
- 6) 光機能性材料セミナーオンラインで2021年12月に開催予定(日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛)
- 7) 「写真好き」のための工場見学/定例講演会(2020年度内に5回予定詳細未定)予定
- 8) 西部支部講演会(2021年度内;京都工芸繊維大学協力)予定

- 9) 科学写真研究会セミナー(2021年、詳細未定、名古屋大学・東邦大学・千葉大学他)
 - 10) プリント技術セミナー(2022年、詳細未定、日本印刷技術協会共催)
 - 11) 2021年度「写真のエキスパートになろう!」講習会(詳細未定、カメラ映像機器工業会・写真感光材料工業会協力)
 - 12) 第58回アイソトープ・放射線研究発表会(2021年7月7日～9日、オンライン、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会や他学会と協賛)
 - 13) 天体写真技術セミナー(詳細不明(公社)日本天文学会、国立天文台等9団体協賛、(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会協力)
 - 14) メディカルイメージング連合フォーラム2022(詳細不明、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会共催)
 - 15) 第35回固体飛跡検出器研究会(詳細未定、固体飛跡検出器研究会主催、日本写真学会共催または協賛)
- #### 5-2 国際交流に関する事項
- 1) 2021年 ICAI(The International Conference on Advanced Imaging(ICAI2020))のプレプログラム委員会を設立し、具体化検討を行う。
- #### 6. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条(5))
- 6-1 2021(令和3)年度学会賞(功績賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞)の授与。
 - 6-2 2021(令和3)年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与
 - 6-3 2021(令和3)年度小島裕研究奨励金の授与
 - 6-4 2022(令和4)年度学会賞(名誉賞、功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰)受賞者の選考
 - 6-5 2022(令和4)年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
 - 6-6 2022(令和4)年度小島裕研究奨励金交付対象者の選考
 - 6-7 名誉会員の推薦、永年会員の認証
 - 6-8 フェローの推薦と認定
- #### 7. その他目的を達するために必要な事項(定款第5条(6))
- 7-1 運営に関する会議
第10回社員総会(2021年5月18日)、理事会(年7回)、役員研修会(年1回)、学会賞選考委員会(年1回)、学会賞授賞式(年1回)役員選考委員会(年1回)、代表理事会(年20回)、財務委員会(年1回)および庶務委員会、人事委員会(適時)、その他。
 - 7-2 編集委員会(年4回)
学会誌の編集方針、内容の更新、特集・各種記事の企画、論文審査体制、著作権の整備などの検討を行う。平常業務は電子メールを活用し、委員間の意見交換を随時行う。会員からの学会誌に関する意見聴取につとめる。学会誌の電子ジャーナル化作業を引き続き行い、同時に投稿を呼びかける。英文論文誌の掲載論文数を増加させるための方法を検討する。
 - 7-3 技術委員会
定期的に各技術部会・研究会の代表者が集まり(電子メールによる会議含む)、オンライン会議による研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う。又、研究会、講演会、セミナーなどをオンライン開催も含めて適宜開催し、広く本学会内外に活動状況を提示することにより、本学会における当該科学技術分野の向上を図る。さらに年次大会、秋季大会でのプログラム委員活動を通じて研究発表を活性化し、技術分野の偏在の解消を引き続き推進する。
最新の技術・開発動向を調査し、既存研究会での課題検討や新規領域に対応する新規研究会化などを検討する。また「技術者紹介サービス」を通して、当会の技術資産である賛助会員・個人会員の知識・経験を相互に生かす支援を行う。
 - 7-4 写真文化拡大委員会
写真学会と一般の写真愛好家、写真関連大学を中心とした学生との交流を中心としつつ、カメラ好きの対象を広げていくべく

活動を行っていく。委員会所属の研究会活動と講演会、見学会およびワークショップなど専門家以外の方々を対象にした企画を行い、参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく。写真学会の専門性を活かし、一般人との垣根を低くする活動を行う。

7-5 企画実行委員会

新規技術領域の講演研究事業の企画ならびに実行推進にあたるため、会長、企画担当副会長、技術担当副会長の代表理事からなる当委員会で、具体策の検討を図る。又、写真文化拡大活動を画像入出力部会・写真文化拡大部会が連携して進めると共に、関連学協会との連携強化を検討と実行推進を図る。

7-6 国際交流委員会

2021年 ICAI (The International Conference on Advanced Imaging (ICAI2021)) のプレプログラム委員会および今年立ち上げの ICAI2021 連合会実行委員会と日本写真学会 ICAI トラック実行委員会で具体化を行う。

7-7 広報委員会

各イベントの開催に合わせたホームページの活用を含めホームページの改善および会員へのタイムリーな情報の発信・サービス、ホームページの更新を継続的に行う。また、写真関係のイベント等を通じ、一般の方々へ本会の紹介を積極的に行う。

7-8 会勢拡大委員会

会勢拡大施策の企画ならびに実行推進にあたるため、会長、企画担当副会長、技術担当副会長の代表理事からなる当委員会で、学会活動の立案と実行を通して会勢拡大の為の具体策の検討を図る。各種講演会、セミナーでの正会員勧誘に加え、役員主導の勧誘活動を行う。又、賛助会員についても、カメラ関連、画像関連など、従来非会員であった分野にも役員主導で積極的に働きかける。また、新規技術部会、研究会のメンバー拡大を図り、部会・研究会の活性化を図る。

7-9 画像関連学会連合会関連

画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会と日本写真学会の会長・副会長からなる2021年度の代議委員会を適宜実施し、2021年は ICAI 実行委員会主体の ICAI2021 (International Conference on Advanced Imaging 2021, 2021年10月4日～8日千葉幕張メッセ) に向け、それぞれの実行委員会で具体化を行う。

7-10 科学技術振興機構電子アーカイブ事業

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づく例年の作業として、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行う。

7-11 日本写真学会100周年記念事業

過去100年の学会の足跡とこれからの100年の展望をテーマとして、様々な記念事業を展開する。そのために本年度から本格的に事業内容を検討し始める。他機関との連携も視野に入れる。

以上

【第4号議案】2021年（令和3年）度収支予算案 (P000 ページ参照)

【第5号議案】2021年（令和3年）度役員等の選任（案）

1-1 新役員候補者（敬称略）

1-1 新役員候補者（敬称略）

1) 理事 11名

中野寧（コニカミノルタ科学技術振興財団）加藤隆志（富士フィルム）

飯野裕明（東京工業大学）池側隆之（京都工芸繊維大学）（新任）

大関勝久（名古屋大学）郡司秀明（日本印刷技術協会）

田中里美（日本大学）（新任）鈴木博文（ニコン）

西澤敦（セイコーエプソン）蒔田剛（キヤノン）

松澤良紀（OM デジタルソリューションズ）

2) 監事 1名

豊田堅二

1-2 残留役員（敬称略）

1) 理事 9名

今泉祥子（千葉大学）久下謙一（千葉大学）

白石幸英（山陽小野田市立山口東京理科大学）砂川智英（三菱製紙）

清野晶宏（IMAGICA エンタテインメントメディアサービス）

山口孝子（東京都写真美術館）山田勝実（東京工芸大学）

吉田英明（OM デジタルソリューションズ）吉田哲夫（名古屋大学）

2) 監事 1名

高田俊二（千葉大学）

参考

2. 令和3年度評議員

1) 令和3年度委嘱 14名

古森重隆（富士フィルムホールディングス）江口俊哉（コニカミノルタ）（新任）

戸倉剛（キヤノン）五十嵐人志（セイコーエプソン）

今井亨（日本放送協会放送技術研究所）大野隆司（千葉大学）

三宅洋一（千葉大学）久保田敏弘（京都工芸繊維大学）

川崎三津夫（京都大学）酒井克之（東京工芸大学法人）

島田文生（コニカミノルタ科学技術振興財団）高田俊二（千葉大学）

義江龍一郎（東京工芸大学）原直久（日本大学）

2) 残留評議員 8名

鈴木邦夫（三菱製紙）村上直之（ニコン）

杉本繁実（OM デジタルソリューションズ）有馬登（三菱製紙）

阿部隆夫（信州大学）谷忠昭（日本写真学会フェロー）

山田元茂（元三菱製紙）吉野弘章（東京工芸大学）

3. 幹事：18名

稲垣由夫（元富士フィルム）岩本康平（元セイコーエプソン）

内田孝幸（東京工芸大学）大川泰輔（セイコーエプソン）

大川裕輔（千葉大学）河合清（富士フィルム）

桑山哲郎（千葉大学）白岩洋子（紙本修復家）（新任）鈴木

敬子（神奈川県立近代美術館）高橋則英（日本大学）

津村徳道（千葉大学）中竜大（東邦大学）

西垣仁美（日本大学）福田努（名古屋大学）（新任）

松下艶子（ニコン）宮本公明（元富士フィルム）森島邦博（名古屋大学）（新任）山下清司（元富士フィルム）

4. 西部支部：6名

池側隆之（京都工芸繊維大学）白石幸英（市立山口東京理科大学）

岩崎仁（元京都工芸繊維大学）佐藤慈（九州産業大学）

安藤千穂子（京都工芸繊維大学）植松道治（パナソニック）

5. フェロー：6名

金田 英治（元副会長）小林 裕幸（元会長、千葉大学名誉教授）
 谷 忠昭（元会長、元富士フイルム）三宅 洋一（元会長、千葉
 大学名誉教授）
 高田 俊二（元会長、元富士フイルム）岩崎 仁（元西部支部長）
 半那 純一（東京工業大学名誉教授）（新任）

【第6号議案】会員の除名

定款第10条により、15名を除名とする。

以上

【第2号議案】2019年（令和元年）度決算報告（案）

貸借対照表
 令和3年3月31日現在

一般社団法人 日本写真学会		(単位:円)		
科 目	当年度	前年度	増 減	
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	6,069,980	7,138,031	△	1,068,051
未 取 会 費 金	3,822,627	3,207,750		614,877
未 取 金	332,573	332,573		0
流動資産合計	10,225,180	10,678,354	△	453,174
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
定 期 預 金	27,000,000	27,000,000		0
基本財産合計	27,000,000	27,000,000		0
(2) 特定資産				
普 通 預 金	1,998,472	2,500,542	△	502,070
特定資産合計	1,998,472	2,500,542	△	502,070
(3) その他固定資産				
電 話 加 入 権	74,984	74,984		0
その他固定資産合計	74,984	74,984		0
固定資産合計	29,073,456	29,575,526	△	502,070
資産合計	39,298,636	40,253,880	△	955,244
II 負債の部				
1. 流動負債				
未 払 金	111,165	862,225	△	751,060
預 り 金	91,454	71,525		19,929
前 受 会 費 金	42,000	901,500	△	859,500
仮 受 金	0	60,496	△	60,496
流動負債合計	244,619	1,895,746	△	1,651,127
負債合計	244,619	1,895,746	△	1,651,127
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0		0
(うち特定資産への充当額)	(3,503,829)	(3,503,829)		0
2. 一般正味財産				
一般正味財産合計	39,054,017	38,358,134		695,883
(うち基本財産への充当額)	(27,000,000)	(27,000,000)		0
正味財産合計	39,054,017	38,358,134		695,883
負債及び正味財産合計	39,298,636	40,253,880	△	955,244

正味財産増減計算書
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

Table with 4 columns: 科目, 当年度, 前年度, 増減. Rows include 一般正味財産増減の部, 経常増減の部, 経常収益, 経常費用, and 正味財産期末残高.

予算対比正味財産増減計算書
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 一般正味財産増減の部, 経常増減の部, 経常収益, 経常費用, and 正味財産期末残高.

Table with 4 columns: 科目, 当年度, 前年度, 増減. Rows include 印刷製本費, 事務所維持管理費, 経常費用計, 評価損益等調整前当期経常増減額, 当期経常増減額, 経常外増減の部, 経常外収益, 経常外費用, 指定正味財産増減の部, 指定正味財産増減額, 指定正味財産期首残高, 指定正味財産期末残高, 正味財産期末残高.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 通信運搬費, 租税公課, 消耗品費, 福利厚生費, 法定福利費, 貸借利息, 印刷製本費, 事務所維持管理費, 経常費用計, 評価損益等調整前当期経常増減額, 当期経常増減額, 経常外増減の部, 経常外収益, 経常外費用, 指定正味財産増減の部, 当期指定正味財産増減額, 指定正味財産期首残高, 指定正味財産期末残高, 正味財産期末残高.

財務諸表に対する注記

一般社団法人 日本写真学会

財産目録

令和3年3月31日現在

一般社団法人 日本写真学会

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物置等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	本部手許有価 支部手許有価	運転資金として 運転資金として	(1,054) 1,054 0
預金			(6,068,926)
普通預金	三菱東京UFJ銀行/新宿中央4519541(本部) みずほ銀行/中野坂上1809687(本部) みずほ銀行/中野坂上4174418(運用口) 三井住友銀行/新宿 5401808(杉浦氏) 三井住友銀行/新宿 5401808(杉浦氏) 三井住友銀行/新宿2746816(杉浦氏) みずほ銀行/中野坂上1917722(写真工学) 三井住友銀行/新宿 5401808(杉浦氏) ゆうちょ銀行/東京 地方貯金局00130-6-7281 外貨預金三菱東京UFJ/新宿中央3074454		2,708,861 5,272 271,159 0 127,818 395 562 2,919,244 35,615
未収会費			(3,822,627)
正会員会費			3,779,627
賛助会員会費			43,000
未収入金		学会誌投稿料・広告料等	(332,573)
立替金			(0)
		年末調整還付金	0
流動資産合計			[10,225,180]
(固定資産)			
基本財産			(27,000,000)
定期預金	三菱東京UFJ銀行/新宿中央4519541(本部) みずほ銀行/中野坂上6323138(本部) 三菱UFJ銀行/新宿26802009(杉浦氏) 三井住友銀行/新宿7543251-01(杉浦氏)		10,000,000 5,000,000 10,000,000 2,000,000
特定資産			(1,998,472)
普通預金	みずほ銀行/新宿4439856(小島祐氏基金)		1,998,472
その他固定資産			(74,984)
電話加入権			74,984
固定資産合計			[29,073,456]
資産合計			[39,298,636]
(流動負債)			
未払金	中野年金事務所 K D D I . N T T 東日本 富士ゼロックス 朝日ビジネスサービス㈱	社会保険料 通話料 コピーカウンター 顧問料、業務委託料	(111,165) 13,818 62,697 1,650 33,000
前受金	2021年度会費		(42,000)
預り金	中野税務署 中野年金事務所	源泉所得税 社会保険料(従業員預り分)	(91,454) 12,260 79,194
仮受金		繰入金分	(0)
流動負債合計			[244,619]
負債合計			[244,619]
正味財産			[39,054,017]

1.重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

ソフトウェアの減価償却方法は5年に基づく定額法による。

(2) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	27,000,000	0	0	27,000,000
小計	27,000,000	0	0	27,000,000
特定資産				
普通預金	2,500,542	20	502,090	1,998,472
小計	2,500,542	20	502,090	1,998,472
合計	29,500,542	20	502,090	28,998,472

3.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定財産 からの充当額)	(うち一般経費 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	27,000,000		(27,000,000)	-
小計	27,000,000	0	27,000,000	-
特定資産				
普通預金	1,998,472	(1,998,472)		-
小計	1,998,472	(1,998,472)		-
合計	28,998,472	(1,998,472)	(27,000,000)	-

4-1. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

該当資産なし。

4-2. 固定資産の増減額及び当期末残高は次のとおりである。

該当資産なし。

一般社団法人 日本写真学会
 会長 中野 寧 殿

私たち監事は、当法人の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第99条第1項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律197条において準用する同法第99条第1項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第36条及び第45条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第64条において準用する同規則第36条及び第45条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等と閲覧し、当協会の主たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しく示しているものと認めます。

② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和3年4月27日

監事 高田 俊二



監事 豊田 堅二



【第4号議案】2021年（令和3年）度収支予算案

収支予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会		(単位:円)		
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[593]	[5,423]	[△	4,830]
基本財産受取利息	593	5,423	△	4,830
受取会費	[8,841,000]	[9,519,500]	[△	678,500]
正会員受取会費	4,525,500	4,926,500	△	401,000
賛助会員受取会費	4,315,500	4,593,000	△	277,500
事業収益	[3,566,000]	[0]	[3,566,000]
講演・研究事業収入	3,566,000	0		3,566,000
受取寄付金	[600,000]	[600,000]	[0]
受取寄付金	600,000	600,000		0
雑収入	[874,366]	[852,805]	[21,561]
受取利息	1,366	4,352	△	2,986
広報広告費	173,000	162,000		11,000
別刷・投稿料代	200,000	154,000		46,000
雑収入	500,000	532,453	△	32,453
経常収益計	13,881,959	10,977,728		2,904,231
(2) 経常費用				
事業費	[7,107,000]	[5,291,050]	[1,815,950]
学会誌等刊行事業費	(3,370,000)	(3,720,000)	(△	350,000)
事務員給与	0	10,000	△	10,000
学務員送与	300,000	300,000		0
交通費	30,000	40,000	△	10,000
印刷製本費	3,000,000	3,000,000		0
雑費	20,000	20,000		0
原稿費	0	80,000	△	80,000
J-S-T-A-G-E編集	0	250,000	△	250,000
査校正料	20,000	20,000		0
講演研究事業費(1)	(2,210,000)	(0)	(2,210,000)
給料	176,000	0		176,000
旅費	273,000	0		273,000
会場費	191,000	0		191,000
通信運搬費	60,000	0		60,000
会議費	172,000	0		172,000
消耗品費	20,000	0		20,000
諸謝金	768,000	0		768,000
印刷製本費	333,000	0		333,000
雑費	39,000	0		39,000
参加者会合費	178,000	0		178,000
講演研究事業費(2)	(135,000)	(50,000)	(85,000)
通信運搬費	95,000	50,000		45,000
諸謝金	40,000	0		40,000
奨励助成事業	(1,082,000)	(1,116,493)	(△	34,493)
奨励助成事業	1,082,000	1,116,493	△	34,493
給料	290,000	310,061	△	20,061
旅費	20,000	52,568	△	32,568
福利厚生費	0	41,928	△	41,928
管理費	[6,774,000]	[7,155,913]	[△	381,913]
給料	(3,800,000)	(4,208,090)	(△	408,090)
事務員給与	3,800,000	4,208,090	△	408,090
会費負担金	214,000	214,000		0
旅費	(410,000)	(480,000)	(△	70,000)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	
事務員交通費	385,000	480,000	△	95,000
役員交通費	25,000	0		25,000
通信運搬費	865,000	528,000		337,000
租税公課	74,000	74,000		0
消耗品費	100,000	100,000		0
福利厚生費	(346,000)	(487,023)	(△	141,023)
法定福利費	346,000	487,023	△	141,023
貸借料	140,000	140,000		0
諸謝金	385,000	550,800	△	165,800
事務所維持管理費	360,000	294,000		66,000
雑費	80,000	80,000		0
経常費用計	13,881,000	12,446,963		1,434,037
評価損益等調整前当期経常増減額	959	△ 1,469,235		1,470,194
評価損益等計	0	0		0
当期経常増減額	959	△ 1,469,235		1,470,194
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0		0
当期経常外増減額	0	0		0
当期一般正味財産増減額	959	△ 1,469,235		1,470,194
一般正味財産期首残高	0	0		0
一般正味財産期末残高	959	△ 1,469,235		1,470,194
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0		0
III 正味財産期末残高				
	959	△ 1,469,235		1,470,194

一般社団法人 日本写真学会 第10回定時社員総会議事録

1. 開催日時：2021年（令和3年）5月18日（火）15：00～16：00
2. 会場：日本写真学会 事務局
〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大内8号館1Fマルチスペース 8103
3. 議決権を有する代議員総数
25名
4. 議決権を有する出席代議員数
22名（本人出席：7名、委任状：15名）
5. 出席代議員
酒谷孝次、須藤幸司、土生祐介、平井 勇、森剛一郎、佐藤智生、森田晃
6. 出席役員および役員候補者
理事：中野寧、山田勝実、加藤隆志、飯野裕明、池側隆之、今泉祥子、大関勝久
久下謙一、白石幸英、鈴木博文、砂川智英、西澤 教、松澤良紀、吉田英明
監事：高田俊二、豊田堅二
7. 議事録作成者
事務局：山岸治
8. 議事の経過の要領及びその結果

会長の中野寧は、定款第17条の規定により、議長となり開会を宣言し、定款第19条の規定により、上記のとおり、定足数に足る代議員の出席があったので、本社員総会に適法に成立した旨を報告し、議事に入った。

ついで議長は、定款第21条の規定により、議事録署名人を指名したい旨を述べ、加藤隆志氏および山田勝実氏を選任したい旨を述べた。その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これに賛成した。

ついで議長は、定款第14条の規定により、以下の第1号議案から第7号議案の報告及び説明と決議を行うことを宣言した。

1/3

以上をもって本総会における報告及び全議案の審議を終了したので、議長は午後16時00分に閉会を宣した。

上記議事の経過及びその結果を明確にするため本議事録を作成し、定款21条により、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

2021年（令和3年）5月18日（火）

一般社団法人 日本写真学会 第10回定時社員総会

議長 中野 寧



議事録署名人 加藤 隆志



議事録署名人 山田 勝実



3/3

第1号議案 2020年（令和2年）度事業報告の件

議長に指名された吉田英明庶務委員長は、2020年（令和2年）度の事業実施報告を説明し、その内容を報告した。

第2号議案 2020年（令和2年）度決算報告・会計監査報告

議長に指名された飯野裕明財務副委員長は、令和2年度の決算報告書にて収支決算を報告し、財務監査および決算書作成時に会計士資格保有の専門家の確認がされているかについて、朝日税理士法人で確認している旨の質疑を行った後、豊田堅二監事から監査の結果正鵠なることを認める監査報告があり、その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

第3号議案 2021年（令和3年）度事業計画案の件

議長に指名された吉田英明庶務委員長は、2021年（令和3年）度の事業計画案を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

第4号議案 2021年（令和3年）度収支予算案の件

議長に指名された飯野裕明財務副委員長は、2021年（令和3年）度収支予算書にて、2021年（令和3年）度収支予算案を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

第5号議案 2021年（令和3年）度役員等の選任

議長は、定款第23条の規定により、2021年（令和3年）度の改選役員候補の理事及び監事案の議事を行うことを宣言し、山田勝実役員選考委員長は、2021年（令和3年）度の改選役員候補の理事及び監事案を説明し、その改選を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

再任理事（11名）：飯野裕明、池側隆之、大関勝久、加藤隆志、郡司秀明、田中里美
鈴木博文、中野寧、西澤 教、森田剛、松澤良紀、
残留理事（9名）：今泉祥子、久下謙一、白石幸英、清野晶宏、砂川智英、山口孝子
山田勝実、吉田哲夫、吉田英明
再任監事（1名）： 豊田 堅二
残留監事（1名）： 高田 俊二

第7号議案 会員の除名

議長は、定款第11条の規定により、15名の会員資格を喪失する事を説明し、その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これを承認可決した。

2/3